

伊那市観光 アクションプラン

INA CITY TOURISM ACTION PLAN
令和7年度～10年度



計画策定の背景

令和2年1月以降、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、多くの国で海外渡航制限等の措置が敷かれ世界的規模で人の流れが止まりました。この影響は、伊那市においても例外ではなく、旅行控えや外出自粛の影響等により観光需要は激減しました。

本市では、平成29年度から31年度を計画期間とし「山・花・食」を重点柱に事業を推進する観光実施計画を策定しました。さらに本計画を加速させ、二つのアルプス、「天下第一の桜」をはじめとする四季を通じた花、豊かな農産物、特色ある食文化を強みに伊那市のブランド力を高め、

滞在交流型の観光誘客により、地域経済、地域の活性化に貢献できるよう「山」「花」「食」に加え、「技」を柱の一つに加え、令和2年度から4年度の3年間に於いて重点的に取り組む具体的事業を明確に掲げ推進する伊那市観光実施計画（アクションプラン）を策定し、観光事業の推進を図りました。この計画期間中には新型コロナウイルス感染拡大などを経て、人々の多様化する観光スタイルやニーズ・価値観に大きな変化が見られたことから計画の改定を見送りました。

こうした状況を踏まえ、環境変化に伴う課題に柔軟に対応するため、観光関連団体、観光に携わる民間事業者、市民、行政等が連携して、着実に観光業の振興を実現していくため、観光振興に関する基本的な方向性、重点的に取り組むべき内容について定めます。



計画の期間と位置づけ

本計画は「第2次伊那市総合計画」の個別計画とするとともに、次期伊那市総合計画の策定に合わせて改訂を行うことを念頭に、計画期間は令和7年度から令和10年度までの4年間とします。

第2次伊那市総合計画に定める将来像

「未来を織りなす 創造と循環のまち 伊那市」

将来像を実現するための基本目標

「地域の個性と魅力が輝くにぎわいと活力のあるまちづくり」

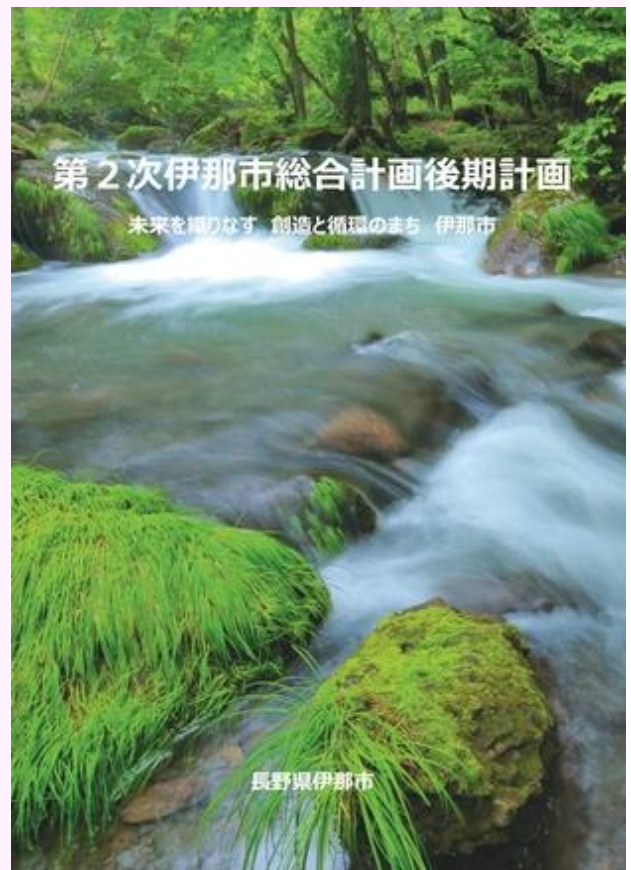
観光の柱である「山」「花」「食」「技」などの地域の強みを生かし育みながら、様々な魅力の創造と発信により、国内外からの交流人口の増加を図り、にぎわいと活力のあるまちづくりを進めます。

基本目標の達成に向けた主要施策

「おもてなしの心による賑わいの創出と魅力発信」

二つのアルプスや「天下第一の桜」をはじめとする四季折々に見られる魅力的な風景及び伝統と特色のある食文化は、伊那市最大のブランド価値を有しています。本市の魅力を市内外に向けて発信する効果的なシティプロモーションを通じ、知名度や認知度の向上を図るとともに、農家民泊を中心とする滞在型の観光誘客を推進します。

また、滞在型の観光に欠かすことのできない「おもてなしの心」の醸成により、交流人口の増加を図ることで、将来的な定住人口の増加につなげます。



4つの観光コンテンツと 「伊那を楽しむ。伊那で楽しむ。」

4つの観光コンテンツ

- 南アルプスと中央アルプスの二つのアルプスと、入笠山や鹿嶺高原などの里山の魅力も併せ持つ「**山**」。
 - 「天下第一の桜」と称される高遠城址公園の桜や、約3,000本のバラが咲き誇る高遠「しんわの丘ローズガーデン」のバラなどの「**花**」。
 - 行者そばや高遠そばなど信州そば発祥の地として歴史あるストーリーを持つそばや、ローメンなどご当地グルメ、松茸など魅力ある地域の特産物などの「**食**」。
 - 優れた技術を持ち、美しい石造物を全国に残した高遠石工の「**技**」。
- これら4つの観光コンテンツを組み合わせ、活用することによって、来訪者が忙しい日常や都会の喧騒から離れゆったりとした時間を過ごし、心動かされる自然や歴史文化に出会ってもらえる場所を作ることを目指します。





「伊那を楽しむ。伊那で楽しむ。」

伊那市が持つ4つの観光コンテンツを柱に据え、伊那市の魅力あふれる景観を活かした観光振興や伊那でなければ楽しむことのできない体験など、滞在型の観光誘客を推進するため、本実施計画のコンセプトを

「伊那を楽しむ。伊那で楽しむ。」

とし、伊那市が持つ観光資源のポテンシャルを最大限に引き出す、4年間の実施計画を策定し、観光の活性化に寄与することで、地域経済の発展につなげます。

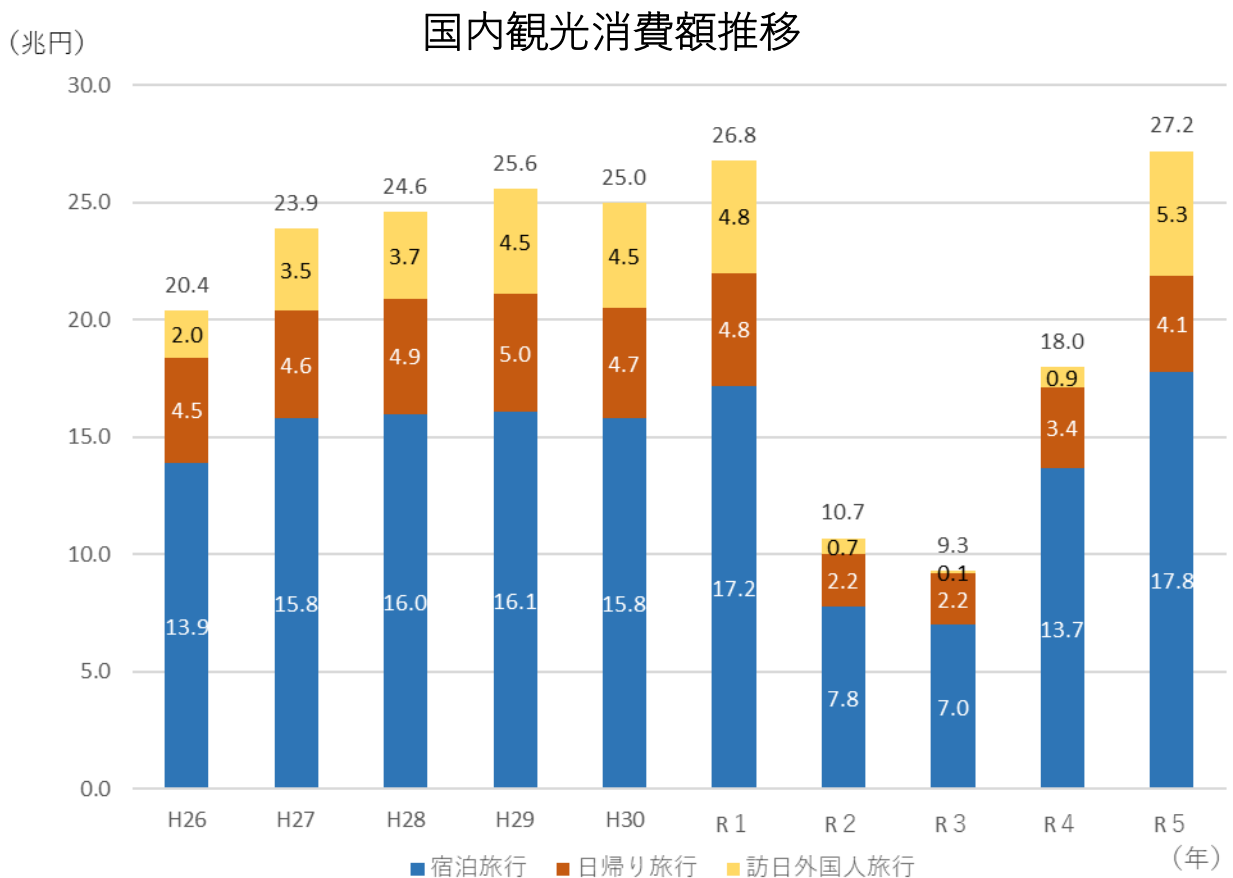
伊那市の観光の状況

1. 日本の観光動向

(1) 国内観光消費額

日本国内における観光動向は、令和2年の新型コロナウイルス感染拡大によって大きく落ち込みましたが、現在は感染拡大前の令和元年の水準に戻りつつあります。

令和5年は、過去10年間の中でも日帰り旅行における消費額が最高であり、宿泊旅行も以前の水準に戻っていることから、全体的には順調に回復されています。日本人旅行者数が順調に推移するとともに、訪日外国人旅行者による消費額が増加しており、コロナ前の観光消費額を上回り、初めて政府が目標とする5兆円を超えました。

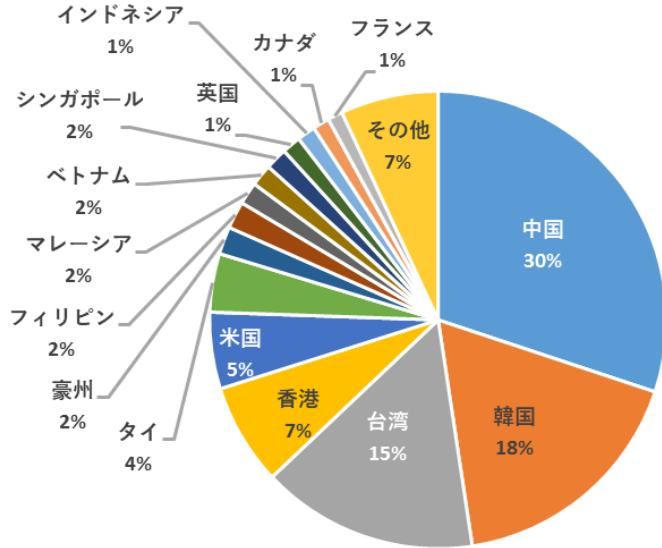


出典：旅行・観光消費動向調査（観光庁）

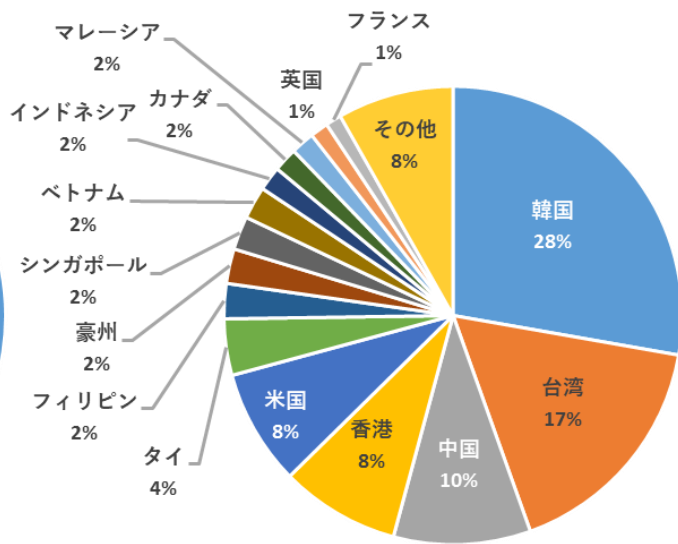
(2) 訪日外国人旅行者内訳

新型コロナウイルス感染拡大前後における訪日外国人旅行者の国・地域別の内訳は、いずれもアジアからの訪日が8割を占めています。平均滞在日数と平均消費額では欧米豪が上位となっており、国や地域によって特徴が異なります。

令和元年 訪日外国人旅行者内訳



令和5年 訪日外国人旅行者内訳



令和5年 平均滞在日数（泊）

順位	国	滞在日数
1	ロシア	17.1
2	フランス	16.3
3	ドイツ	15.2
4	スペイン	14.7
5	オーストラリア	14.0
6	イギリス	13.7
7	イタリア	12.5
8	カナダ	12.3
9	アメリカ	11.0
10	インド	9.9
11	シンガポール	9.1
12	インドネシア	7.9
13	マレーシア	7.6
14	中国	7.5
15	フィリピン	7.4
16	タイ	6.5
17	香港	6.5
18	ベトナム	6.0
19	台湾	5.8
20	韓国	3.6

令和5年 平均消費額（円）

順位	国	消費額
1	オーストラリア	314,653
2	フランス	311,571
3	アメリカ	300,486
4	イギリス	293,745
5	ドイツ	291,429
6	シンガポール	289,393
7	スペイン	282,744
8	中国	276,440
9	インド	275,168
10	カナダ	269,286
11	イタリア	260,659
12	ロシア	242,996
13	香港	208,718
14	マレーシア	192,400
15	インドネシア	188,823
16	フィリピン	182,375
17	タイ	171,552
18	台湾	148,430
19	ベトナム	143,454
20	韓国	91,584

出典：訪日外客数（総数）（日本政府観光局）／ 訪日外国人消費動向調査（観光庁）

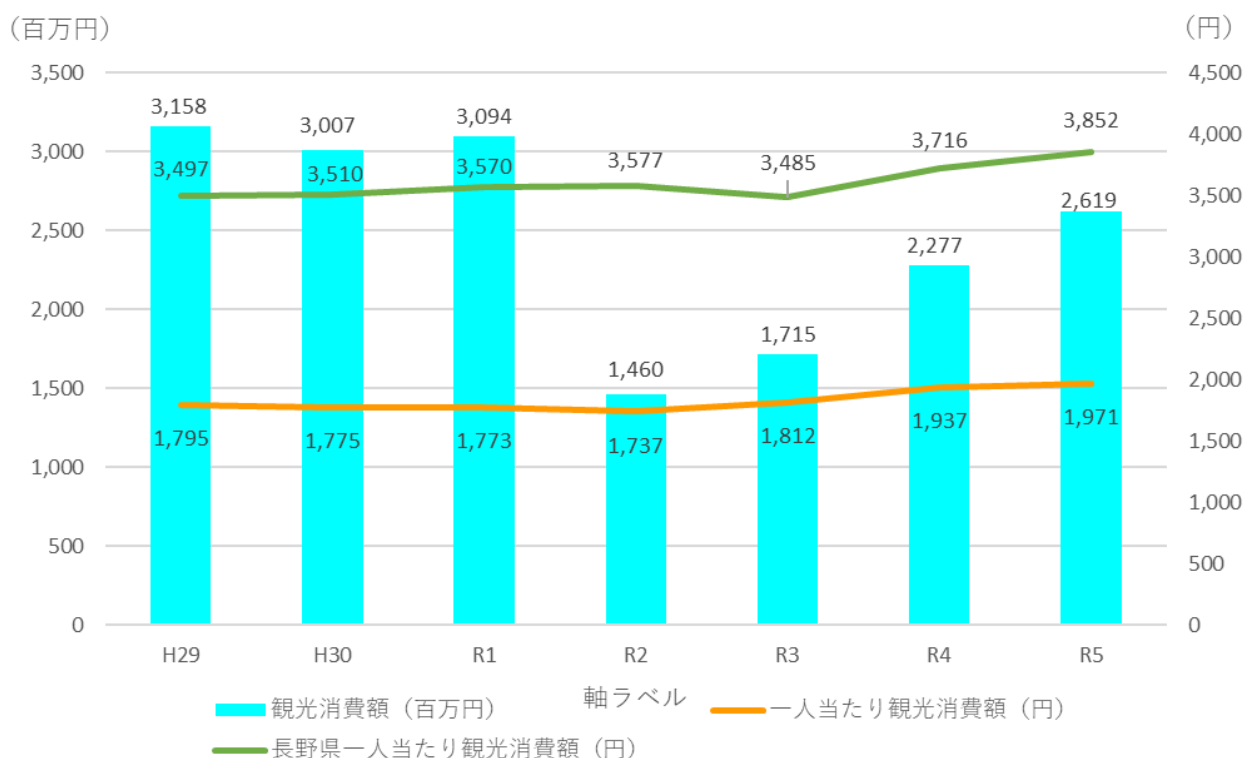
2. 伊那市の観光における現状

(1) 伊那市観光消費額

伊那市の観光消費額は、コロナ禍以前はほぼ横ばいで推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2年に大きく減少し、コロナ禍以降は年々回復傾向にあります。

一人当たりの観光消費額では、コロナ禍以前と比較して増加しており、観光消費が拡大傾向にあります。長野県の平均値と比較すると、伊那市が2千円弱少ないことが分かります。

伊那市観光消費額推移



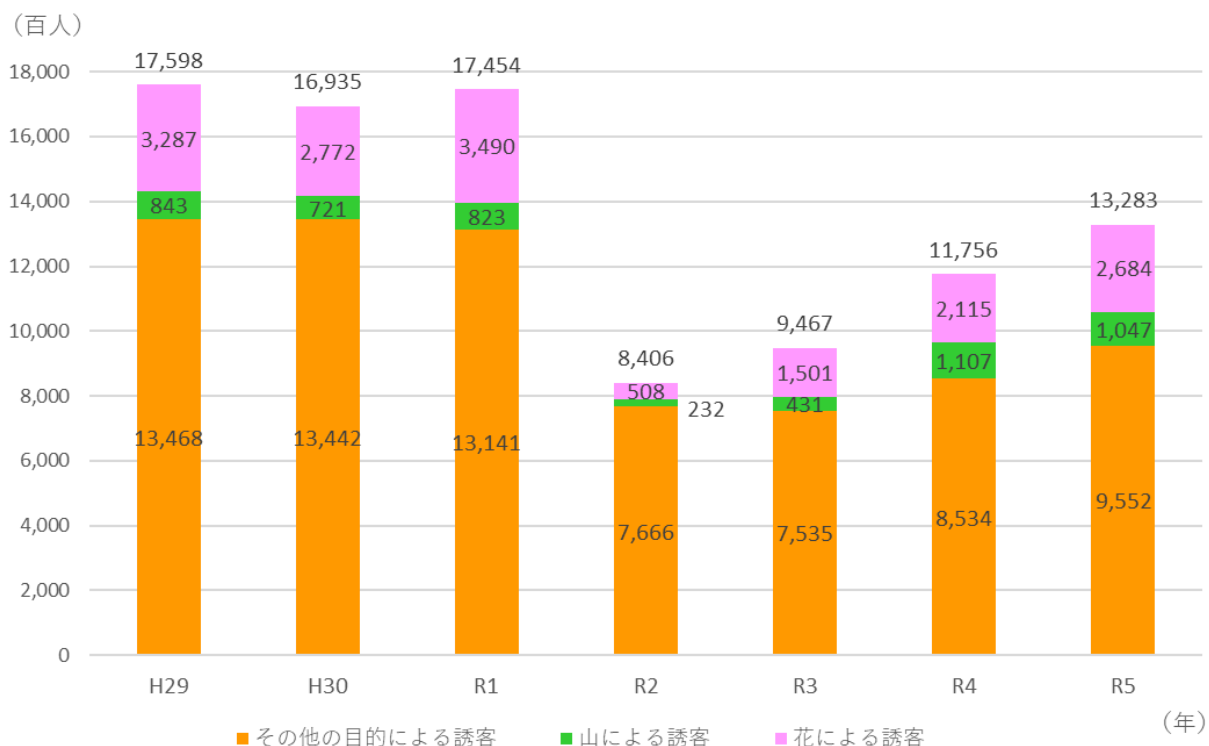
出典：観光地利用者統計調査（長野県）

(2) 伊那市観光地利用者数（目的別）

伊那市の観光地利用者数は、コロナ禍以前はほぼ横ばいで推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2年に大きく減少し、コロナ禍以降は年々回復傾向にあります。

「山」による誘客、「花」による誘客は、気候により影響を受けやすく、著しく数値が変動する場合がありますが、「山」による誘客における数値は、コロナ禍以前の数値を上回っています。

伊那市観光地利用者数（目的別）



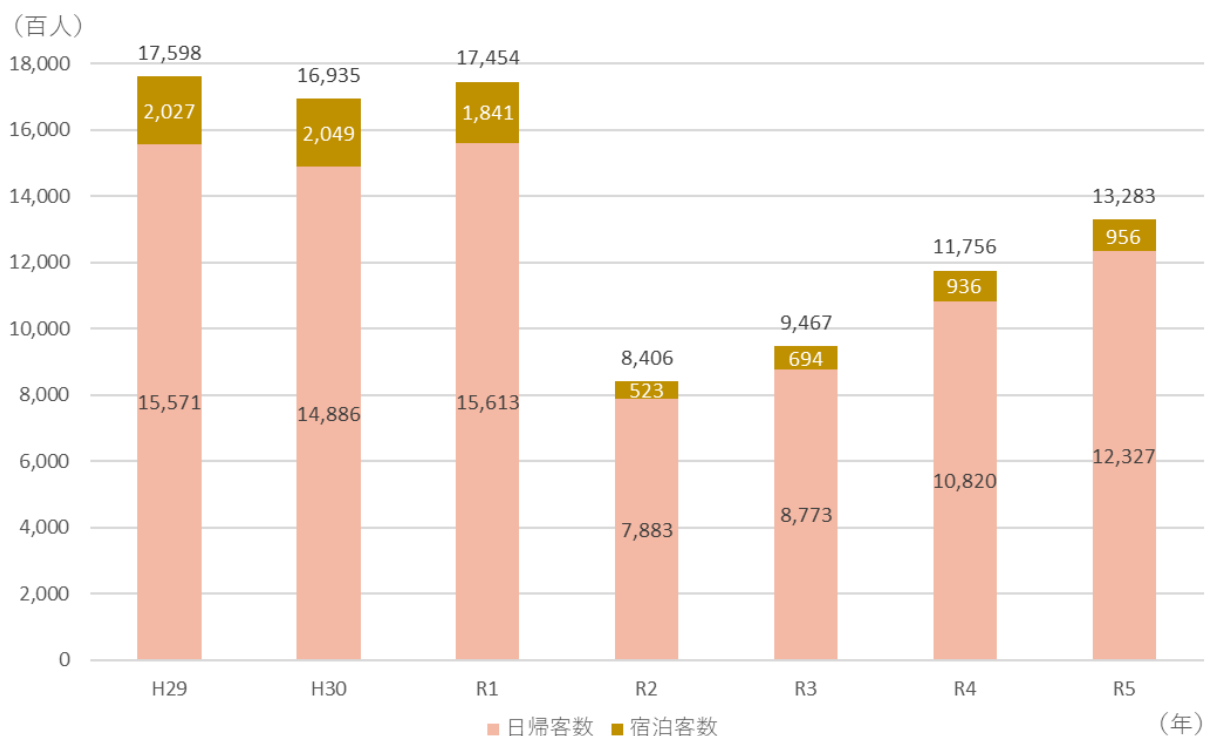
出典：観光地利用者統計調査（長野県）

(3) 伊那市観光地利用者数（日帰り客数・宿泊客数）

伊那市に訪れる観光客数の日帰り・宿泊の割合を見ると、観光客の約9割が日帰り客となっており、伊那市は通過型の観光地となっていることが分かります。

また、コロナ禍以降は日帰り客数の割合がさらに増加傾向にあるため、滞在型観光を目指した宿泊客数の獲得が課題となっています。

伊那市観光地利用者数（日帰り客数・宿泊客数）



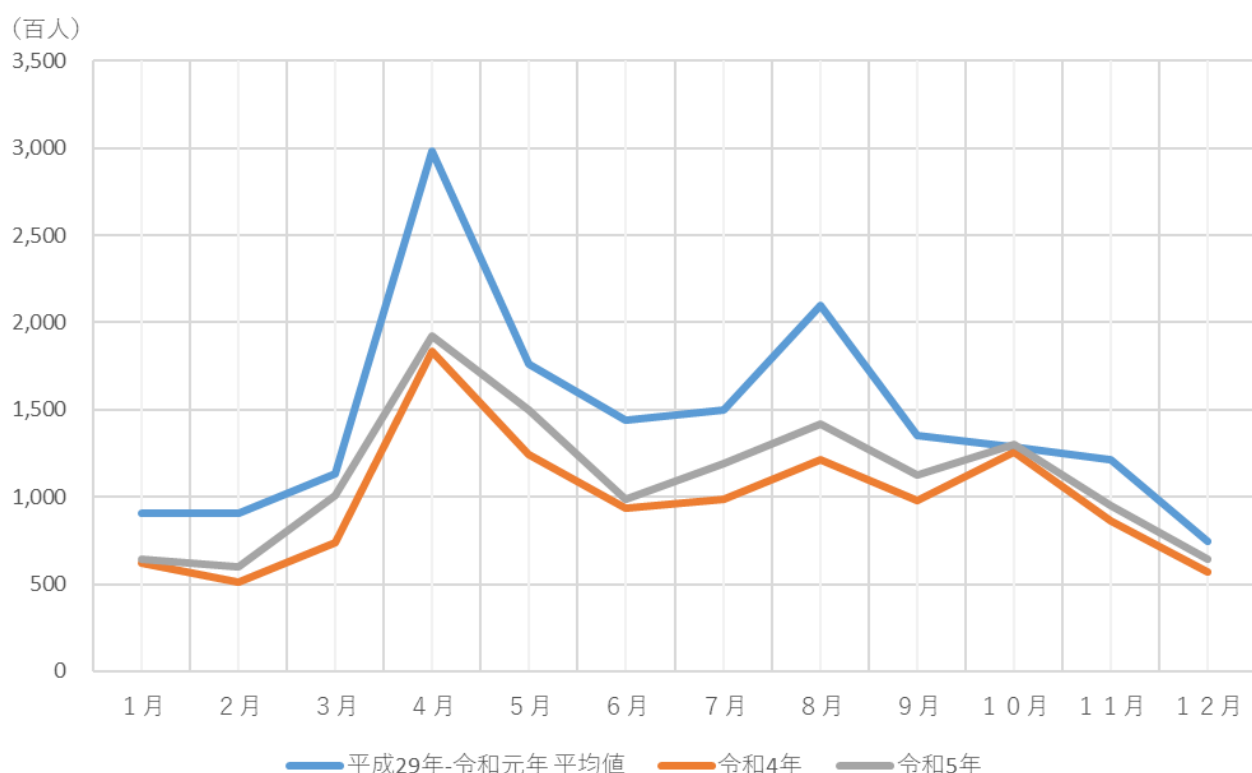
出典：観光地利用者統計調査（長野県）

(4) 伊那市観光地利用者数年間推移

新型コロナウイルス感染拡大前の伊那市の観光地利用者数は、春・夏のシーズンに集中しており、冬期には利用者数が大きく落ち込んでいます。コロナ禍以降の令和4年、令和5年は春・夏に加え、秋シーズンの利用者数が増加傾向にあります。

シーズンによる利用者数の偏りがあり、特に冬季の落ち込みが課題となるため、冬シーズンの観光振興について検討を行う必要があります。

伊那市観光地利用者数年間推移



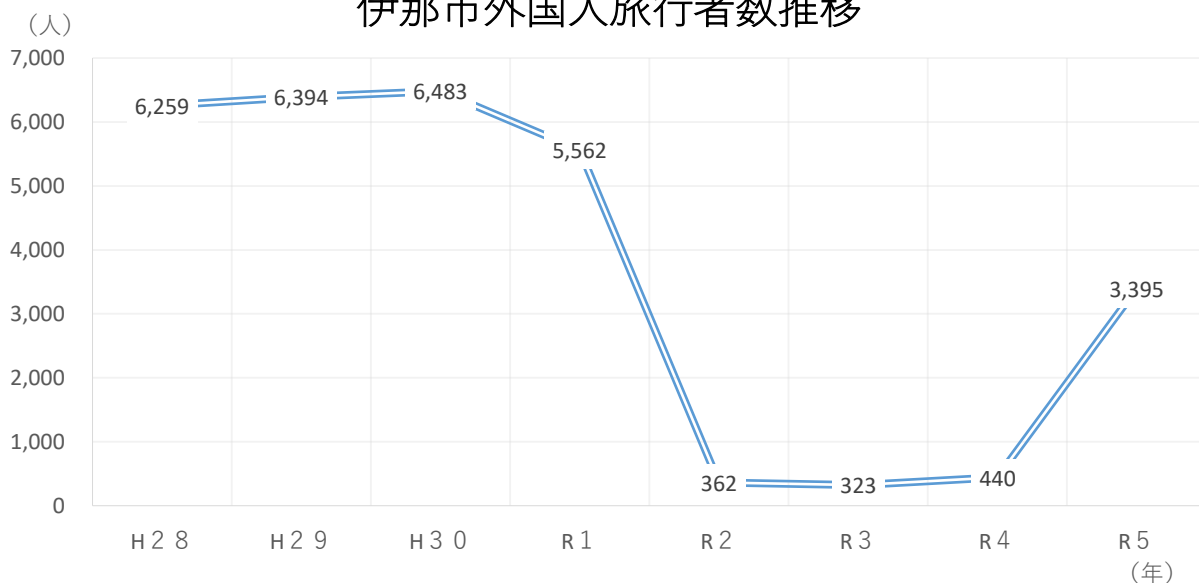
出典：観光地利用者統計調査（長野県）

(5) 伊那市外国人旅行者数

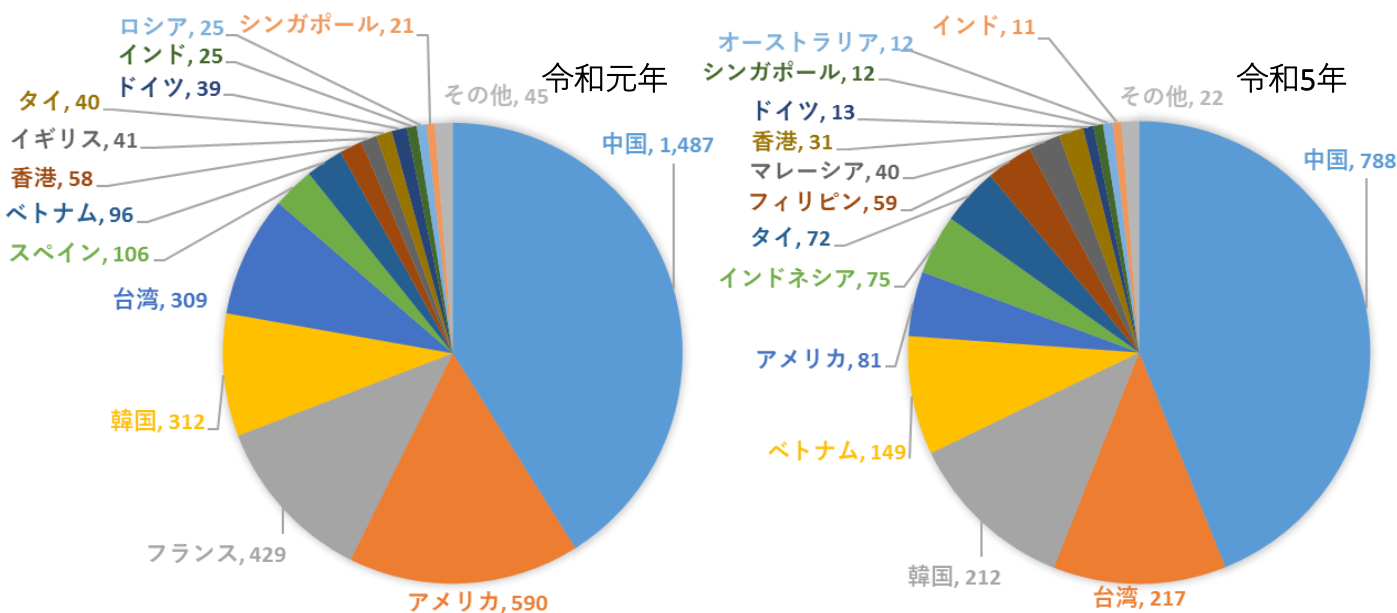
新型コロナウイルス感染拡大により伊那市への外国人旅行者は令和2年以降、大幅に減少しました。令和5年ではコロナ禍前には及びませんが順調に回復しています。

国別の旅行者の内訳では、コロナ禍前の令和元年では中国に続き、アメリカ、フランスなど欧米からの旅行者も相当数いましたが、令和5年は欧米からの旅行者が大幅に減少しています。

伊那市外国人旅行者数推移



伊那市国別外国人旅行者



※国名が不明の宿泊者は数値にカウントしていません。

数値目標

本計画は「第2次伊那市総合計画」の個別計画として位置付けるため、基本目標の達成に向けた主要施策「おもてなしの心による賑わいの創出と魅力発信」を実現するための「まちづくり指標（KPI）」の観光地利用者延べ数と観光消費額を目標値として設定します。

数値目標のうち、長野県観光地利用者統計を用いた観光地利用者数については、「山」による誘客、「花」による誘客の目的別の目標値を併せて設定します。ただし、「山」及び「花」による誘客は気候による影響を受けやすく著しく変動することがあるため、令和7年度から令和10年度までの4年間の計画期間中のいずれかの年で達成すべき目標値として設定します。

		現状地	目標値
		令和5年	令和10年
「山」による誘客	延利用者数	104,700人	135,000人
	観光消費額	412百万円	487百万円
「花」による誘客	延利用者数	268,400人	347,000人
	観光消費額	333百万円	393百万円
伊那市全体	延利用者数	1,328,300人	1,720,000人
	観光消費額	2,619百万円	3,096百万円

観光振興に取り組む展開方針（行動計画）

行動計画Ⅰ 観光資源の構築と有効な活用

- ・観光事業者や各団体等との連携を推進し、質の高い戦略的な観光施策により観光地利用者数や観光消費額の増加につなげます。
- ・市内の多様な観光資源を生かした観光サービスや、付加価値向上につながる商品企画を観光事業者や各団体等と共に推進します。



行動計画Ⅱ 広域連携によるおもてなし推進

- ・飛騨路、木曽路、伊那谷、諏訪圏域、三遠南信などの圏域や県の枠を越えた広域連携の相乗効果を発揮させるため、より一層の地域間交流の推進を図ります。
- ・長野伊那谷観光局による上伊那管内のさまざまな素材をつなげる広域観光に連携して推進します。
- ・市民の観光への理解向上と意識の変容を促す取組を推進します。
- ・伊那市観光協会と連携し、ガイドの育成と充実を図り、市民団体活動を支援します。



行動計画Ⅲ 観光客の需要把握とターゲットへ訴求する情報発信

- ・マーケティング調査や旅行関係者へのヒアリング調査、及び市内観光事業者間の情報共有などにより、インバウンドも含めた観光客の需要の的確な把握に努めます。
- ・各種情報媒体、SNSなどを効果的に活用し的確なターゲット層への情報発信に努めます。
- ・情報発信拠点として観光案内所の充実を図ります。



行動計画Ⅳ 農家民泊・インバウンドの推進と充実

- ・農家民泊を伴う教育旅行の受入れを充実するため、受入れる農家数の拡大や団体客の受入れに対応できる体制の構築に努めます。
- ・みはらしファームや農業団体と連携した各種農業体験を通じて、本市ならではの農産物の魅力を発信するとともに、観光素材の魅力と結びつけた農観連携を推進します。
- ・アジアをはじめとする諸外国に対して、伊那市観光協会と連携してインバウンド誘客のプロモーションを推進します。



行動計画Ⅴ 官民連携による受入れ体制の整備

- ・観光事業者、各団体、伊那市観光協会及び市がそれぞれ、新たなサービスの創出と品質向上、情報発信を行い、相互連携して取り組む仕掛けづくりに努めます。



行動計画Ⅵ 観光インフラの整備

- ・観光関連施設については、長期的な視点に基づく総合的な維持・管理計画を策定し、利便性の向上や長寿命化に向けた改修や整備を進めます。



持続可能な観光への取り組み

近年、観光業は地域経済の重要な柱として位置づけられていますが、同時に環境への影響や地域社会との調和が求められるようになっていきます。持続可能な観光地づくりは、観光資源を保護しながら、地域の文化や自然環境を次世代に引き継ぐための重要な取り組みです。このような観点から、本実施計画で掲げる「山」「花」「食」「技」の4つの観光コンテンツと、「伊那を楽しむ。伊那で楽しむ。」のコンセプトを体現し、伊那市らしい持続可能な観光の実現に向けて、2020年に観光庁が策定した国際基準に準拠した持続可能な観光指標「日本版持続可能な観光ガイドライン（Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations（JSTS-D）」を導入します。

日本版持続可能な観光ガイドラインとは

国際基準に準拠した指標

日本版持続可能な観光ガイドライン Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations（JSTS-D）は、日本の特性を各項目に反映した上で、GSTC(注1)による観光地向けの持続可能な観光の国際基準「GSTC-D2.0」に準拠した指標として開発され、2020年6月に観光庁よりリリースされました。

持続可能な観光地マネジメントを進めるうえでのガイドライン

各地方公共団体や観光地域づくり法人（DMO）は、指標に基づいた取り組みを進めることで、持続可能な観光地マネジメントを進めることが可能となります。

4分野から構成される指標

日本版持続可能な観光ガイドラインは、A マネジメント、B 社会経済、C 文化、D 環境の4分野から構成されており、合計47の大項目・113の小項目が設定されています。

注1



国連の機関や公共、民間、NGOの各セクターなど、観光に関わる150以上の団体が参画している機関で、さまざまな認証機関の認証プロセスを審査し、認定する。GSTCの開発した国際的な観光地の基準であるGSTC-Dは、世界で唯一UNWTOの指示のもとに作られた指標である。

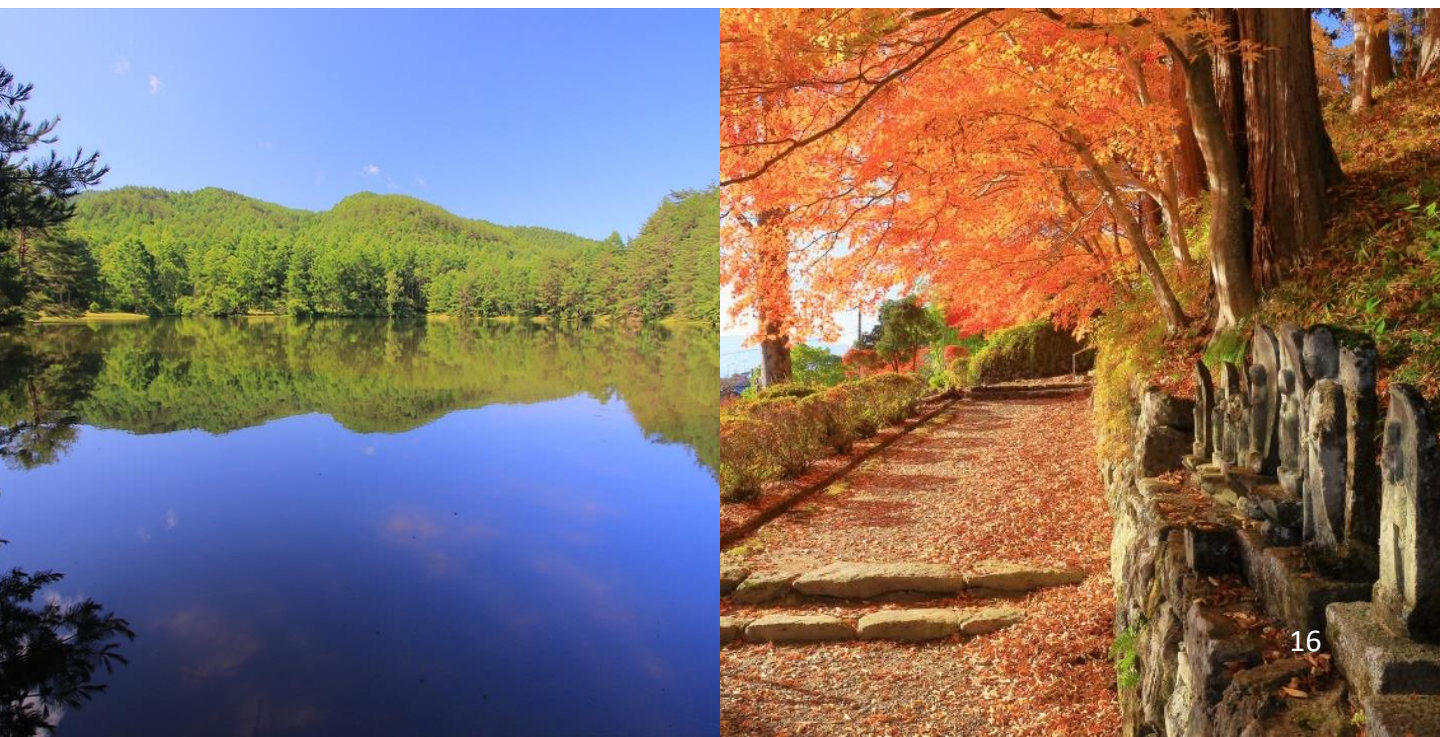
●行動計画の具体的取組

1. 観光資源の構築と有効な活用

(1) 観光コンテンツの魅力創出



実施の目的	市内の多様な地域資源を活かし、訪れる方が想像を膨らませることのできるストーリーの構築と観光コンテンツ化による魅力の創出を図り、プロモーションの推進を展開する。
主な 取組内容	●伊那市が持つ歴史、文化、伝統、自然、環境など地域資源の価値の整理 ●地域資源を活用したストーリー構築及び観光コンテンツ化の推進 ●工芸品の掘り起こしと地域資源としての活用 ●ストーリーを活かしたプロモーション展開 ●SNS、メディア等を活用した情報の発信 ●地域おこし協力隊と連携した魅力の創出と発信 ●冬季の観光振興の課題整理と観光コンテンツ検討
実施主体	伊那市、観光協会、商工団体



(2) 「二つのアルプス」を活用した観光振興



実施の目的	日本屈指の人気を誇る南アルプスや中央アルプスの受入環境の整備とプロモーションを、山岳観光事業者と連携して展開し、「二つのアルプス」のブランド向上と伊那市内への経済の波及を推進する。
主な 取組内容	●登山道整備、案内看板整備など登山客が安心して楽しめる安全な山岳観光の環境整備 ●南アルプスの登山基地「南アルプス長谷 戸台パーク」の周辺環境の整備と楽しめる場所としての利活用 ●ジオライナーなど二次交通の自走化の推進 ●登山シーズンの観光客を市内に誘客する周遊の仕掛けづくり ●南アルプス林道バスの安全運行と適切な経営 ●入山料の山岳観光環境整備への適切な活用 ●エコパーク・ジオパークを活用した登山、トレッキングなどのツアーの提供 ●「南アルプス長谷 戸台パーク」からの情報の発信 ●特色ある山小屋施設の充実と情報発信 ●SNSを活用したタイムリーな情報発信 ●ガイド付きツアー、ジオガイドによる環境教育を通じた観光と自然保護の両立
実施主体	伊那市、観光協会、山岳観光事業者、二次交通事業者

(3) 身近にある「山」の楽しみの拡充



実施の目的	入笠山や鹿嶺高原など身近にある山の魅力発信と、山での楽しみ方の多様化を図る。
主な 取組内容	● 天空のキャンプ場「鹿嶺高原キャンプ場」指定管理者との連携による魅力発信や誘客につながるイベントの開催 ● 入笠山で気軽に楽しめるハイキングの魅力をPRと周辺環境の整備 ● 入笠高原や鹿嶺高原など美しいロケーションの活用と発信 ● パワースポット分杭峠の交通対策と魅力発信 ● 里山などの景観保全と観光コンテンツ化
実施主体	伊那市、観光協会、山岳観光事業者、指定管理事業者

(4) 「天下第一の桜」による観光振興



実施の目的	天下第一と称される高遠城址公園の桜をはじめ、伊那公園、春日公園や花の丘公園など市内各所の桜を「日本一の桜の里」として整備し、誘客事業を展開する。
主な 取組内容	● 市内のさくら祭りにあわせた誘客イベントの企画、開催 ● バリアフリー、ユニバーサルデザイン、インバウンドなどすべての観光客が楽しむことのできる高遠城址公園整備 ● ライトアップやプロジェクションマッピングなど、魅力的な夜桜の提供と情報発信 ● 夜桜を活用した誘客イベントの企画、開催 ● 観光客がスムーズに移動できる渋滞のない交通対策 ● 観桜期間中の観光客を市内に誘客する周遊の仕掛けづくり ● 高遠城址公園、花の丘公園、春日公園、伊那公園、非持山の山桜など市内の桜のPR
実施主体	伊那市、観光協会、観桜期観光事業者

(5) バラを活用したまちづくりの推進



実施の目的	市民と行政が一体となってバラのまちづくりを進め、通年で楽しむことのできる取り組みを推進する。
主な 取組内容	●高遠「しんわの丘ローズガーデン」維持管理とバラ園の拡充 ●高遠「しんわの丘ローズガーデン」乗用カートを活用したイベントの実施 ●高遠「しんわの丘ローズガーデン」を中心としたバラによるまちづくりの推進と全国に向けた情報発信 ●市街地、商店街などで行われるバラに関わるイベントの調整とPR ●バラに関わるイベント期間中の観光客を市内に誘客する周遊の仕掛けづくり
実施主体	伊那市、観光協会、施設管理者、バラ振興団体

(6) 秋の観光誘客推進



実施の目的	高遠城址もみじ祭りなど、秋色に染まる紅葉と味覚による誘客の拡大を図る。
主な 取組内容	●高遠城址もみじ祭りの誘客イベントの企画と情報発信 ●箕輪町など近隣市町村と協力し、もみじによる誘客の支援 ●そば満喫月間と連携した祭りの運営 ●民間と連携した秋に咲くバラを活用した誘客イベントの企画と情報発信
実施主体	伊那市、観光協会、観光関連団体

(7) 「信州そば発祥の地 伊那」ブランドによる誘客推進

実施の目的	「信州そば発祥の地 伊那」のブランド力を活用し、全国に向けた情報発信による市内蕎麦店への集客の拡大に向けた取組を展開する。
主な 取組内容	●市外で開催される蕎麦イベントでの誘客活動 ●関東、中京エリアへのPR強化 ●県と連携した「そば県」のPR強化とイベント実施 ●そば満喫月間の各団体のイベント調整 ●秋から冬にかけて観光客が蕎麦店を巡る仕掛けづくり ●蕎麦店、蕎麦提供店舗の拡大 ●入野谷在来そば生産拡大と販路拡大のプロモーション ●伊那在来そばの復活とプロモーション ●行者そば、高遠そば、入野谷在来そば、暑中信州寒晒蕎麦など、伊那でしか食べられないそばの提供とPR
実施主体	伊那市、長野県、観光協会、市内蕎麦店、蕎麦生産者、そば振興団体

(8) 伊那市ならではの食文化による誘客推進

実施の目的	自然に恵まれる伊那市は、多彩な食文化が育まれており、これらの食や地域特産品のブランド化による誘客の取り組みを推進する。
主な 取組内容	●伊那市ならではのソウルフード（ローメン、ソースカツ丼など）を提供する店舗の情報発信 ●羽広かぶや芝平なんばん、高遠てんとうなんばんなどの伝統野菜の情報発信 ●将軍家へ献上された松茸のブランド力向上と産地としての魅力発信 ●伊那谷ならではの伝統的な食文化である昆虫食の情報発信
実施主体	伊那市、観光協会、商工団体、飲食事業者

(9) 「高遠石工」のふるさとからの魅力発信

実施の目的	優れた技術を持った「高遠石工」のふるさと伊那から、精巧な技術で彫像された石造物を通じた魅力の発信を行い、観光コンテンツ化の確立を図る。
主な取組内容	●信州は「高遠石工の野外博物館」であり、ふるさと高遠からの情報発信 ●高遠石工が活躍した全国の自治体や団体と相互連携した誘客 ●石仏を探訪するガイドツアーの実施 ●若年層に向けた石仏を身近な存在として知ってもらう取り組み ●地域おこし協力隊や「日本で最も美しい村連合」と連携した魅力発信 ●名工守屋貞治の知名度向上と情報発信
実施主体	伊那市、観光協会、高遠石工研究センター、ガイド団体

(10) 歴史文化の観光コンテンツ化

実施の目的	高遠を中心とした神社、仏閣、芸能、祭りなど、市内の歴史・文化的資源、地域に残る伝承を魅力ある観光コンテンツにつなげるPRを展開する。
主な取組内容	●「日本で最も美しい村連合」と連携した高遠町の魅力発信 ●通年観光客増加に向けた、歴史文化を探究する周遊の仕掛けづくり ●教育委員会と連携して市民が歴史文化を知るための機会創出 ●井上井月などの地域に関係する歴史人物の魅力発信 ●民間団体と連携した保科正之公のドラマ化推進
実施主体	伊那市、観光協会、歴史文化団体

(11) 自転車の観光利用推進

JS-TS-D
D2

JS-TS-D
D3

JS-TS-D
D13

実施の目的	歴史や文化、景観、食を活かした観光コンテンツと自転車を結び付けた観光利用の推進を図ります。
主な 取組内容	●安心安全なライドができるサイクルネットワークづくりなどの環境整備 ●市内周遊のサイクルコースづくりと既設サイクルコースの情報発信 ●旅行やレジャーで自転車を活用するサイクルツーリズムの推進 ●レンタサイクル、シェアサイクルの導入検討 ●飯田線を活用したサイクルトレイン事業の検討 ●市内の自転車アクティビティ施設の利活用による観光コンテンツ化の推進 ●山麓一サイクル街道など広域的なサイクリングロードの環境整備と魅力発信
実施主体	伊那市、観光協会、自転車関連事業者



2. 広域連携によるおもてなし推進



(1) 広域観光団体連携

実施の目的	圏域や県の枠を超えた広域連携の相乗効果を発揮させるため、より一層の地域間交流の推進を図る。
主な 取組内容	●長野伊那谷観光局と連携した上伊那郡内の素材をつなぎ合わせた広域観光の推進 ●三遠南信道路開通を見据えた広域連携の推進 ●国道361号を軸とした岐阜県高山市、木曽町、伊那市による広域観光の推進 ●友好都市などの自治体と連携した情報発信
実施主体	伊那市、観光協会、商工団体、長野伊那谷観光局、長野県、友好都市

(2) 市民誰もが観光ガイド



実施の目的	全ての市民がおもてなしの心でお迎えし、市民誰もが観光ガイドとして市の魅力を伝える。
主な 取組内容	●観光協会と連携したガイドの育成と充実 ●ガイドの高齢化等の課題解決と真に活動できる組織体制の確立 ●ガイド団体の活動支援など市民参加型の観光事業体制の構築 ●市民全員の観光ガイド化の促進
実施主体	伊那市、観光協会、高遠石工研究センター、ガイド団体

3. 観光客の需要把握とターゲットへ訴求する情報発信



(1) デジタルを活用した観光ニーズの把握

実施の目的	マーケティング分析や観光ニーズの把握など、デジタルを活用した観光調査の推進を図り、多様なニーズの的確な把握に努め利便性の向上を目指す。
主な 取組内容	● デジタルを活用したマーケティング分析の検討 ● デジタルを観光に活用した観光ニーズ把握 ● 広域的な人流データによる人流動向の把握の検討と活用 ● 情報提供サイトなどへの効果的な誘導の強化
実施主体	伊那市、観光協会、商工団体

(2) HP、SNSなどを活用した情報発信



実施の目的	SNSなど用いたタイムリーな情報の発信を行い、多様なターゲット層への効果的な訴求を図る。
主な 取組内容	● HPを活用した定期的な情報発信と短期による最新情報の発信 ● X（旧Twitter）、Facebook、Instagramなどのソーシャルネットワークワーキングサービス（SNS）を活用したタイムリーな情報の発信 ● 観光客需要の把握によるターゲット層への効果的な訴求 ● ドローン映像やストーリー性のある観光PR動画による積極的な伊那市の魅力発信 ● インフルエンサー登用の検討 ● 情報発信に向けた研修会の開催
実施主体	伊那市、観光協会、商工団体

(3) 観光案内所、ビジターセンターの充実



実施の目的	広域的な情報の提供、観光コンテンツの魅力発信など、観光拠点として機能強化と、来訪者のニーズに応えられる案内所の経営継続を図る。
主な取組内容	●高遠町観光案内所の継続と情報収集・発信の強化 ●南アルプスビジターセンターの活用による山岳観光案内の強化 ●観光案内所のブランド力強化とサービスの質の向上 ●訪日外国人旅行者に対応した情報の発信
実施主体	伊那市、観光協会、商工団体、南アルプスジオパーク協議会

(4) フィルムコミッション機能の充実



実施の目的	メディア・ロケ支援体制の充実を図り、メディアへの掲出やロケ作品を通じた魅力の発信により、伊那市の認知度を向上させるとともに、地域資源を観光コンテンツとしての付加価値を加えた活用を図る。
主な取組内容	●フィルムコミッションの強化と観光への活用 ●ロケ地情報の効果的な発信と連携したイベントの実施 ●ドラマ、映画等の撮影誘致による聖地としてのブランド力向上
実施主体	伊那市、観光協会、伊那谷フィルムコミッション

4. 農家民泊・インバウンドの推進と充実



(1) 教育旅行推進

実施の目的	登録農家数を増やすとともに、受け入れ農家の拡大と充実を図る。
主な 取組内容	●農家民泊のPRと登録農家増加の促進 ●受け入れ農家数の拡大や団体客の受入れに対応できる体制の構築 ●教育旅行やインバウンドの受け入れに持続的に対応するための受け入れ農家への支援
実施主体	伊那市、観光協会、商工団体、伊那谷民泊協議会

(2) 訪日外国人旅行者の受入れ強化



実施の目的	訪日外国人観光客が快適に旅行できる環境の整備を推進するとともに、広域連携による訪日外国人観光客の誘客を図る。
主な 取組内容	●インバウンドに対応した観光案内表示の多言語化推進 ●長野伊那谷観光局と連携したプロモーション ●伊那路・木曽路広域観光連盟による下伊那地域、木曽地域との広域連携への取り組み ●岐阜県高山市、木曽地域と連携した訪日外国人観光客の誘客 ●そば打ち体験など、訪日外国人観光客向けコンテンツの整備 ●訪日外国人向けの誘客プロモーション動画作成
実施主体	伊那市、観光協会、商工団体、観光関連団体

5. 官民連携による受入れ態勢の整備



(1) 産業を利用した観光コンテンツ開発

実施の目的	伊那市特有の産業に係るもの（工場、職人、製品など）を行政と企業が連携し観光コンテンツとして開発し、産業観光の推進を図る。
主な取組内容	●工場見学など観光客向けのコンテンツを開発する。 ●食品関連企業を中心とした観光コンテンツのPRや、工場見学ツアーによる観光誘客 ●工場見学や農業体験、伝統工芸のワークショップなど、地域の歴史や仕組みを楽しみながら学ぶツアー造成
実施主体	伊那市、観光協会、商工団体、産業関連事業者、ニューフロンティア伊那

(2) 人材育成と次世代リーダーシップの強化



実施の目的	地域リーダーの高齢化の課題を解決するための人材育成。
主な取組内容	●地域をリードする若手起業家や観光業界のプロフェッショナルとのワークショップや交流イベントの開催 ●市外からの積極的な人材を招聘し、新しい視点による観光によるまちづくりの検討 ●地域内外からの若手人材を招いた観光プロジェクトのリーダー育成プログラムの実施 ●各団体のKPI（目標設定指標）設定による観光振興
実施主体	伊那市、観光協会、商工団体、観光関連団体

6. 観光インフラの整備

(1) 公共施設等総合管理計画に基づく

長期的な維持管理

JSTS-D
A4

JSTS-D
A12

JSTS-D
B2

JSTS-D
B8

JSTS-D
D7

JSTS-D
D8

JSTS-D
D11

実施の目的	公共施設等総合管理計画及び個別施設計画に基づき、観光施設を効果的・効率的に活用し、必要なサービスを持続的に提供しつつ、長期的な維持管理を推進する。
主な 取組内容	●定期的な点検、診断を実施し、計画的な維持修繕の実施による施設の長寿命化 ●地元や施設利用者との十分な議論による統廃合の推進 ●山荘や宿泊施設など指定管理者との調整による健全経営
実施主体	伊那市、指定管理者



資料

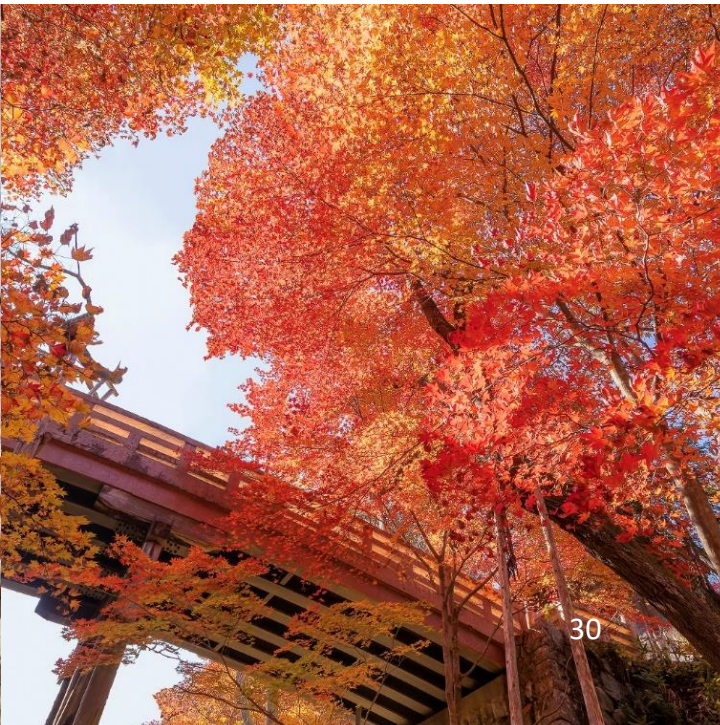
◇策定委員会名簿

役 職	所 属 等	氏 名
委員長	信州そば発祥の地 伊那そば振興会	飯 島 進
副委員長	伊那市自転車活用推進協議会	御 子 柴 慶 治
副委員長	農業法人ファームはせ株式会社	羽 場 権 二
委 員	伊那商工会議所	坂 下 武 志
委 員	伊那市商工会	小 松 博 康
委 員	(一社) 伊那市観光協会 (国内観光部会)	経 田 寛
委 員	(一社) 伊那市観光協会 (インバウンド部会)	北 嶋 隆
委 員	(一社) 伊那市観光協会	伊 藤 隆 博
委 員	伊那谷民泊協議会	中 村 美 里
委 員	伊那食品工業株式会社	滝 沢 洋 行
委 員	伊那市観光株式会社	伊 東 信 介
委 員	長谷山小屋組合	狩 野 俊 一
委 員	高遠城址公園観光協議会	伊 藤 隆 淑
委 員	(一社) 高遠石工研究センター	熊 谷 友 幸

資料

◇事務局名簿

所 属 等	氏 名
商工観光部長	重 盛 巧
商工観光部 観光課長	清 水 俊 一 郎
商工観光部 高遠商工観光課長	山 下 隆
商工観光部 南アルプス課長	伊 藤 保 人
商工観光部 観光課 観光政策係長	池 上 政 史
商工観光部 観光課 観光政策係	武 田 祐 也
商工観光部 観光課 観光政策係	宮 下 直 人





伊那市
www.inacity.jp



伊那市観光協会
(おいでな伊那)
inashi-kankoukyoukai.jp

伊那市観光実施計画／アクションプラン 《概要版》

編集・発行 伊那市観光実施計画策定委員会 （事務局／商工観光部観光課）
〒396-8617 長野県伊那市下新田3050番地 発行日 2025年3月